

- (1) 教材名： 「 やい とかげ 」  
 (2) 本時の目標： 心情曲線を書こう

新年度入ってまだ間もない二週間ほど前、4年生の教室の前を通りかかったとき足が止まった。社会科の授業であったが、このクラスの聴き合っている姿に思わず足が止まった「おお〜」である。静かに、しっとり子ども達が聴き合っている。授業終了後、ぜひ新学期のこの状況を DVD に納めさせてくれませんか？わたしから願い出た。

☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。(時間単位は分〇：〇〇)

8:05 【朝の様子】 静かな朝の始まりである



教師や大人達は、朝というと「明るく元気に」を求めがちである。確かにすがすがしい朝に、今日という一日に希望を抱き、元気に前向きに歩いていきたい気持ちに間違いはない。しかしこのクラスは違う。入ってくる子ども達の声は、ほめられるほど元気な声ではない、しかし、互いに目と目を交わし軽い会釈で「温かなあいさつ」を感じた。入ってきた子ども達は、ランドセルをロッカーに収め各々の朝の活動に出る。静かに淡々と朝の責任が果たされていく。教室の掃き掃除、花壇の水かけ、家庭学習帳の確認、指示する者もないすべて自分たちで淡々と進めていくのである。誰も声をあげることもなく、また誰かにせかされるといこともない。8:15〜朝の読書である。静かに集中する。時々交わされる会話には笑顔がついてくる、決してふざけている会話ではない、自分の読んだ本を語っている。

よく校内において、弱い「子ども達の居場所づくり」の声が聞こえる。しかし、この子達にとって一番「安心」して過ごせるのはこの教室ではないだろうか？しっとり素敵な教室が準備されている。単に学年カラーであるという言葉では済ましたくない。間違いなく前年度の担任の学級経営が影響し、それをT先生と子ども達が引き継ぎ、つなげている。

この後、読書が終わり朝の会から1校時の始まりまで、T先生は一言も指示しない、時々、子ども達と目を合わせ軽くうなずくだけで事が進められていた。余計な指示がない。だから静かで居られる。

学校において、子ども達が安心して学習できる環境を準備するのは学校・教師の責任である(学習権の保障)。当然、子どもの生活習慣や躰、家庭学習についての家庭環境を整えるのは保護者の責任である。しかし、どのクラスにも必ずしも、この一般的な考えで理解や対応できない家庭の事情を抱えた子ども達がいる。朝から「元気にいけない子ども達」が居るということを知ってあげたい。

個性の尊重、多様な個性、・・・必ずしも一つの線に並べることが平等と言えるのだろうか。

【授業開始】・・・これも教師の声は一言もない。



漢字ドリルとデジタルTVを使って新出漢字の練習。「順」「議」音読み・訓読み・つくりや辺・書き順を丁寧に進める。

4:00 男の子が前に出て書き順を模範する。

6:00 テレビ画面の指示と一緒に書き順をなぞる。(全員そろろう)

7:00 「議」の書き順の練習(黒板に板書)

8:00 子ども達がドリルを書いているうちに本時の「学習目標」と、「つきたい力」を板書する。ドリルを終えた子ども達は、ノートを出して板書を写す。(指示なし!)

10:20 この字の前、中央の椅子に腰かけ子ども達が書いている様子をうかがっている。子ども達は書き終えたら手を挙げて合図を送っている。書き終えた子は、テキストを黙読している。(指示なし)

14:25 今日の学習の進め方と目標が確認された。目標の一斉音読有り

16:00 「心情曲線の説明」ブラックハート・ホワイトハート

17:50 グループにおろす。

▲ さあ、これまでの時間配分をどう見るか？丁寧であることは間違いなく、

すでに45分の3分の1が使われてしまった。今日一番時間をかけたいところはどこ？



途中 2 回、書き方に戸惑う子ども達に教師の新たな説明が入った。



【テキストにもどす】



30:30 2 回目の説明の後、グループでの話し合いが一気に加速する。  
35:17 教師「あと五分でまとめをお願いします。」 あ～なんと非情な  
38:40 「あと 1:30 秒」 あ～時間がない。みんな時間の制約を受け焦らさせられる。「やっと分かってきたのに～！」である。

教師が意図的に前に書いたノートを開いて子ども達と何かを確認している。つまりいたら・・・  
「テキストにもどす」である。

【話し合いか？学び合いか？】



・・・「話し合い」と「学び合い」のちがいは何？みんなで協議しよう。  
ホワイトボードに向かってみんなでせわしく語っている。  
大切なことは「学び」の側面があったかである。語っている内容である。  
この場面では「書き方」をどうするかより、「ぼく」の心情をどう読み取るかが、各々の考え方(とらえ方)が交流され学びの価値が深まる。  
「ぼくはこう思う。」…なぜならば！…君はどう思う？  
「何でそう考えたの？」…他者の考えを聴く…自分に取り込む。  
もし、単に「書き方」で議論しているのであれば、それは「決め事」である。他者の考えを聴き自己の変容を図る【ジャンプする】にしたい。

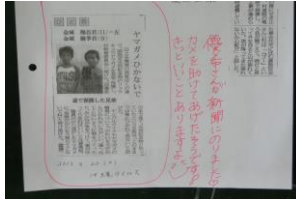
40:00 【全体での共有】 …… グループごとのホワイトボードを黒板に提示



41:40 教師：「どうでしょう」「一つずつ見ていきましょう」  
▲ 教師の解説になってしまった？  
44:40 教師：自転車をなくした時が一番下なの？  
▲ 教師の「分からせたい」ところへの誘引？  
もっと思い切って子どもにあずけてみよう。  
(例)「自転車をなくした時が一番下なの？」ペアや周囲の仲間と話し合  
わさせるといい。結論は各々で構わない！  
45:00 チャイム終了～  
教師：「一番ホワイトボードの時は？」… 最高の発問  
① 自転車がが見つかったとき  
② トカゲのしっぽが生えたとき  
この二つで議論させたかった。 しかし時間が・・・

この授業スタイルを目指してほしい、教師は「聴く・つなぐ」

【関わる・寄り添う 3 枚の写真】



寄り添い、関わるは、授業だけでなく日常が大切である。休み時間のちょっとした時間、テキストやノートへのコメント、右の写真はクラスの仲間が新聞に載った記事が拡大コピーされ、教師のコメント入りで後ろの黒板に掲示されていた。これを見た親はどう思う。

【聴き合う眼(眼差し)】



このクラスでは当たり前！

「先生ありがとうございました。新年度の新学期、せわしい中で教室を開いてくれてほんとに感謝します。しかし、このクラスのしっとりとした空気にはびっくりします。「学び」の研究は子ども達によって教室に引き継がれる。前年度担任のM先生も、この子ども達の様子を見ると安心するのではないのでしょうか。

「学び合う学び」を求めて 2 年目、昨年は初任者研修等であまり入り込めなかったのですが、今年度は先生の本気さがひしひしとかがえました。教師にも様々な個性や、生活状況があります。教職経験年数もあります。それぞれの環境の中で、私なりの「学び合う学び」の授業づくりに挑戦してください。

「静かに、淡々と、楽しく」・「焦らず、無理せず、ゆっくりと」・「笑顔で挑戦しよう」国頭学びの会ゆいのモットーです。

国頭学びの会ゆい